会長の時間　　●片岡会長

－世界一幸福度の高い国の選挙－

先週に続き、選挙のお話です。昨日のアメリカ合衆国大統領選挙の結果を皆さんはどのようにお思いでしょうか？

軍隊を持たない、世界一幸福度の高い人口５００万人（国土面積は四国と九州を足した程度）の中央アメリカの国・コスタリカ共和国では、小学校入学と同時に選挙について学び、そして選挙に参加します。小学校から高校まで生徒会長は、立候補者が７人までの政党をつくり選挙活動を行い、全校生の投票をもって決するのだそうです。さらに国政選挙の際は、選挙権のない生徒が国政選挙立候補者に投票を行う模擬選挙が行われ、この選挙結果が、実際の国政選挙の投票に影響を与えることもあるのだそうです。

「良い政治家とはどんな人」という質問に、コスタリカの小学生の一人は『国民のことを考え国民の為に働く人。自分の利益ばかり考える人はダメ。』と間髪入れずに答えました。

世界秩序に大きな影響力をもつアメリカ合衆国大統領には、事実に基づき『Diversity（ダイバーシティ）、Equity（エクイティ）、Inclusion（インクルージョン）』に照らした政治を願うばかりです。

卓　　話

「Our Future Vision」(Rotary's Value 研究会)

●北村　博会員

「Rotary's Value 研究会」は、各クラブで若手メンバーを核にクラブの将来像（Future Vision）をまとめてもらうことで、自負と士気の底上げを図る。ことを目指し、サポート役として、本條会員、中村ガバナー補佐にご指導をいただく形で、池田幹事、段会員、飯塚会員、北村の計６名で、若手会員による自主勉強会のかたちで、「新たな求心力となる、クラブのビジョンを考える場」として始まりました。

勉強会は６月~10 月まで毎月１回開催し、IM でのクラブ発表を目標としました。

勉強会では、ロータリーの歴史と枠組み（組織、ガバナンス、基本理念、運動の体系)、先人の描いた夢とクラブの歩み（周年記念誌を手掛かりに)、クラブが果たした役割と顕現してきた価値観、ロータリーらしさとは、地域社会のニーズなどについて学びました。

今般の IM プログラムのタイトル「Our Future Vision」は、実は、2013 年にスタートしたロータリー財団の長期ビジョン、「Future Vision Plan」(未来の夢計画) から採ったものです。

そして、今回のＩＭでは、目的として地域社会に於けるロータリー独自の価値・役割を改めて確認することで、目指すべき将来像を明確にし、求心力の向上を図る。とし、

１,　先人の描いた夢を踏まえて
２,　龍野 RC の発展の歩み
３,　近年の状況
４,　将来像の捉え方
５,　ロータリーらしさとクラブの価値観（
６,　地域のニーズと果たすべき役割
７,　Our Future Vision

について、サポーターのレクチャーを受け、学んでいきました。

今回の資料にある、アーチ・クランフの「小さなひらめき」から 100 年を経て、様々な困難を乗り越えながら、財団はクランフが当初思い描いたような、ロータリアンによる国際奉仕のための基金に発展し、奉仕の第二世紀に至っています。

まさしく彼が見通した通り、“Rotary is a movement for the centuries”です。

こうして見ると、RI が「Future Vision Plan」(未来の夢計画) と名付けた、その「未来の夢」とは、かつてクランフが見据えて種をまいた、彼の「未来の夢」そのものであったと思えるのです。

今回の IM で我々が考える「Future Vision」もまた、我々が目指すクラブの将来像であると共に、未来のロータリアンのための種まきとなることを願うことが分かります。

これらの背景を学んだうえで、龍野ＲＣの歴史を合わせて考えると、当クラブの Future Vision が、「クラブの第二創業ともいえる転換期にあって、次なる求心力を何に求めるか」をテーマに、求心力となる将来像（＝理想）をロータリーらしさ、クラブの価値観、地域のニーズ、クラブが果たすべき役割をしっかり考えていくことが重要だと感じます。

私は、この度の研究会に参加させていただくことでロータリークラブの役割である「親睦」「奉仕」「学び」の意味や具体的な行動を学ぶことが出来ました。特に「学び」において、多様な物事の見方・人生観など幅広い人生勉強を先輩会員から学びとること、自分を見つめ、「心の居住まい」を正すことの重要性を感じました。これらを今後積極的に行っていきたいと思います。

では、段会員が発表し、今回の IM では地域社会においてロータリーらしさ、クラブの価値観、地域のニーズ、クラブが果たすべき役割などを再確認し、今後 RC が目指すべき将来像を明確にし、求心力の向上に繋げたいと考えますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

●段　克史会員

11 月 30 日に開催される IM において、「Our Future Vision」というテーマで発表させていただく内容をお話しさせていただきます。

今回の発表まで、本條会員、中村ガバナー補佐にご指導をいただきまして、池田幹事、飯塚会員、北村会員の計６名で若手会員による「新たな求心力となる、クラブのビジョンを考える場」として、自主勉強会を開催していただきました。

この勉強会は 6 月から 10 月まで毎月 1 回開催し、IM でのクラブ発表を目標としつつ、ロータリーの歴史と枠組み（組織、ガバナンス、基本理念、運動の体系）、先人の描いた夢とクラブの歩み、クラブが果たした役割と顕現してきた価値観、ロータリーらしさとは、地域社会のニーズなどについて学びました。

今般の IM のテーマである「Our Future Vision」は、2013 年にスタートしたロータリー財団の長期ビジョンである「Future Vision Plan」（未来の夢計画）から採ったものとのことで、地域社会に於けるロータリー独自の価値・役割を改めて確認し、目指すべき将来像を明確にすることで求心力の向上を図ることを目的としています。

発表は下記の内容となります。

１．先人の描いた夢とクラブの歩み
２．龍野ロータリークラブの歴史
３．果たした役割
４．近年の状況
５．ロータリークラブの価値観
６．果たすべき役割
７．Our Future Vision

創立総会からの歴史を振り返り、近年の状況、ロータリークラブの価値観を再確認するとともに、目指すべきクラブの将来像についてお話しさせていただきました。
今回の発表に至るまで、周年記念誌を基に過去を振り返り、本條会員からロータリークラブについて学ぶ機会をいただきました。
ロータリークラブについて学んだことを龍野ロータリークラブの歴史と照らし合わせて考えると、当クラブの Future Vision が、「クラブの第二創業ともいえる転換期にあって、次なる求心力を何に求めるか」をテーマとし、求心力となる将来像（＝理想）をロータリーらしさ、クラブの価値観、地域のニーズ、クラブが果たすべき役割をしっかり考えていくことが重要だと感じました。
その中で、ロータリー財団の父と云われるアーチ・クランフの「小さなひらめき」から 100 年を経て、ロータリアンによる国際奉仕のための基金に発展し、奉仕の第二世紀に至った様に、IM の発表を通して「Future Vision」を考える機会とし、我々が目指すクラブの将来像を伝えたいと思います。
この発表が未来のロータリアンのための種まきとなり、龍野ロータリークラブのモットーである「親睦こそ我がクラブ」を大切にし、「品位と秩序」、「長幼の序」、「堅からず、柔らかすぎず」という文化を継承できます様、今後も取り組んで参ります。